

来月の利上げに向けて議事録を確認～米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録

2018年5月28日(月)

先週は大きな調整が入る展開となった為替市場。
対円ではドル高の動きが一服も、
ユーロドルなどでのドル高は進んでおり
ドル全面高基調は継続という流れになりました。

もっとも、リスク警戒の動きが強まると、
ドル円、クロス円での円高が進み、ドル円は頭が押さえられる展開に。

そうした中、今週は米雇用統計が発表されます。
結果次第では市場のリスク警戒ムードを払拭させる可能性もある
市場への影響力が高い指標だけに、
注意してみていきたいところです。

前回、4月分の雇用統計は、非農業部門雇用者数が予想の+19万人前後を下回り
+16.8万人に留まりました。

3月分が+10.3万人から13.5万人に上方修正されましたが
修正後でも6か月ぶりの低水準であるように
3月、4月と雇用者数の伸びはやや低調です。

もっとも内訳をみると、そこまで弱いものではなく
3月、8か月ぶりの水準に落ち込んだ建設業が+1.7万人。
変動の激しい小売業が+0.8万人。
雇用の先行指数として知られる
テンポラリー雇用(一時雇用)は
+1.03万人となかなかの好印象です。

4月の天候不順なども併せて、まずまずといったところです。

失業率は予想を超える低下を見せ、
2012年以来の3%台である3.9%に。
もっとも、労働参加率が下がっており、
この影響も大きいと見て、市場の反応は一息でした。

こうした状況を踏まえて、
1日金曜日の雇用統計ですが。
予想は雇用者数が+19万人。
20万の大台には乗らないものの、
現状の米雇用市場が完全雇用に近い状態で、
新規雇用者自体が少ない中でのことと考えると
比較的しっかりした水準です。

失業率は横ばいで3.9%と4%割れの水準が続く見通しとなっています。

インフレとの関連から注目度が高い平均時給は
前月比で若干上昇、前年比変わらず。

雇用者数以外の指標もまずまずで
6月のFOMCでの利上げを確実なものとする可能性が高そうです。
その後の利上げペース加速への期待感まで強まると
ドル買いにつながると期待されます。

先行指標となる30日21時15分発表の
ADP雇用者数も併せて要チェック。
同指標は前回+20.4万人と比較的しっかりとした数字が出ていますが
今回の予想は+18.5万人と前回から鈍化見込み。
ただ水準的には今回の非農業部門雇用者(民間部門)の予想+19.0万人
(ADPは民間部門のみのデータ、
今回労働省の雇用統計での政府部門雇用の見通しが前月比変わらずの為、予想値は同じ)
と比較的近いところに。

前回に続いて節目の20万人を超えるような数字が出てくると、
雇用統計本番の強めの数字への期待につながりそうです。